株式会社オプトラン

2020 年 12 月期第 2 四半期決算説明会　QA サマリー

Q1：足元の状況は？

A1：スマートフォンは北米系と中華系が 2 つの柱です。北米系に関しては、北米スマートフォンメーカーからの研究開発項目は多く、いくつかのプロジェクトは進行している。中華系は、中国国内市場が減速しているので、発注にはつながっていないが、潜在的な開発意欲は強いと感じています。

カメラレンズに関しては、監視カメラは足元、投資抑制をしていますが、製品のアップグレードのニーズはあり、足元の状況は厳しいですが、動きは出てくるのではないか。

Q2：ファーウエイ排除等、米中関係の影響はどの程度か？

A2：ファーウエイ関連は、当社中国系スマートフォン売上高の 1 /3 程度だと推測している。ただし、ファーウエイの売上高は中国内が中心であり、米国内は限定的であり、大きな影響は無いと考えております。

Q3：ALD 装置の用途やポテンシャルは？

A3：ALD 装置は、レンズ曲面や 3 D 構造物等の複雑な表面へ均一・極薄・低温成膜をすることができます。スマートフォン等の広角レンズのような曲面の厳しいレンズ表面への成膜や、複雑な表面のカバーガラス上への装飾膜成膜、ミニ LED ・マイクロ LED の保護膜等の成膜での利用が期待されています。

当社の ALD 装置は、当社グループの Afly solution Oy 社（フィンランド）の ALD 技術と当社のプラズマ技術とを融合し、光学薄膜用に最適化し、新しい成膜技術可能性を追求した世界初の装置であり、受注が本格化してくれば当社の主力製品の 1 つになるのではないか。

Q4：光通信用蒸着装置の過去の需要や受注状況は？

A4：光通信用蒸着装置は、21 年前、当社設立時に開発完了をし、事業の礎となったものである。光通信ブームが去った後、新規装置の需要は無くなった。最近、5G 対応等で基地局拡大の動きがあり、当社は、従来装置を全面的な設計・性能見直しを行い性能を格段に向上させている。上半期の受注の 13%程度が光通信向けであり、現在も複数社と交渉をしている。

Q5：第２四半期において、受注のキャンセルはあったのか？

A5：当社の受注残高に影響を与える、正式発注のキャンセルは殆ど無いです。
　ただし、新型コロナウイルス感染拡大の影響等もあり、交渉段階で正式発注にならないケースはあります。

Q6：第２四半期末の受注残はどれくらい売上に計上されるのか？

A6：第２四半期末の受注残の内、ある程度は売上計上できるものと思います。
リスク要因としては、お客様によっては検収条件が厳しいことや、新型コロナウイルス感染拡大等により、出荷を送らせてほしいと希望されるお客様も出てくる可能性があることです。

Q7：業績予想を修正しない理由は？

A7：受注から売上計上までの期間は、最短で 4～5 ヶ月であり、仮に 8 月・9 月で受注が急増した場合、当社の業績にプラスに寄与する。逆に更なる新型コロナウイルス感染拡大により、出荷を送らせてほしいと希望されるお客様も出てくる可能性もあり、今後の事業の見通しをつけるためには、しばらくの時間を要しますので、現在、公表している業績見通しは維持することといたします。
今後の事業環境や業績動向を踏まえ、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

以上